

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 740 号	氏名	藤下 あゆみ
学位審査委員	主査	戸田 一雄	
	副査	藤原 卓	
	副査	村田 比呂司	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>本研究の目的は、軟食化の咀嚼機能発達への影響と成長発達期後の Rehabilitation 効果を機能学的に評価すること、また咀嚼機能発達における臨界期の有無について検証することである。マウスを用いて咀嚼機能の Rehabilitation モデルを構築することにより、今まで明らかにされていない咀嚼機能発達における臨界期の時系列的解明を目指しており、当該研究分野での先駆的研究となる。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>マウス下顎運動計測には計測精度の高いホール素子とネオジム磁石を、筋活動計測には表面電極ではなく針電極を使用し、高精度の解析を行なっている。試験飼料の使用に関しても、食品性状の1つのパラメータのみを変化させており、他の影響を排除する為の配慮がなされている。また、解析のために抽出した咀嚼運動も 10 サイクル以上の連続咀嚼を採用しており、その手法は科学的見地から適切である。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価</p> <p>咀嚼機能発達における軟食化の影響として、咀嚼効率の低下および食品性状にあわせた咀嚼形成メカニズムに未発達をもたらすことが明らかになった。また、咀嚼機能発達における臨界期の存在も示された。本研究で得られた知見は、児童でみられる咀嚼機能障害のメカニズム解明、治療および予防方法の確立に寄与するものである。</p>			
<p>以上のように本論文は、矯正臨床の発展に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			